

建設DXは オートデスクソリューションで実現!

DXに向け、
オートデスクソリューションは
既にこんな使われ方をしています

会社の基幹システム向けサービスとして

業務の可視化が可能になり、現場と経営層を繋ぐ場所になります

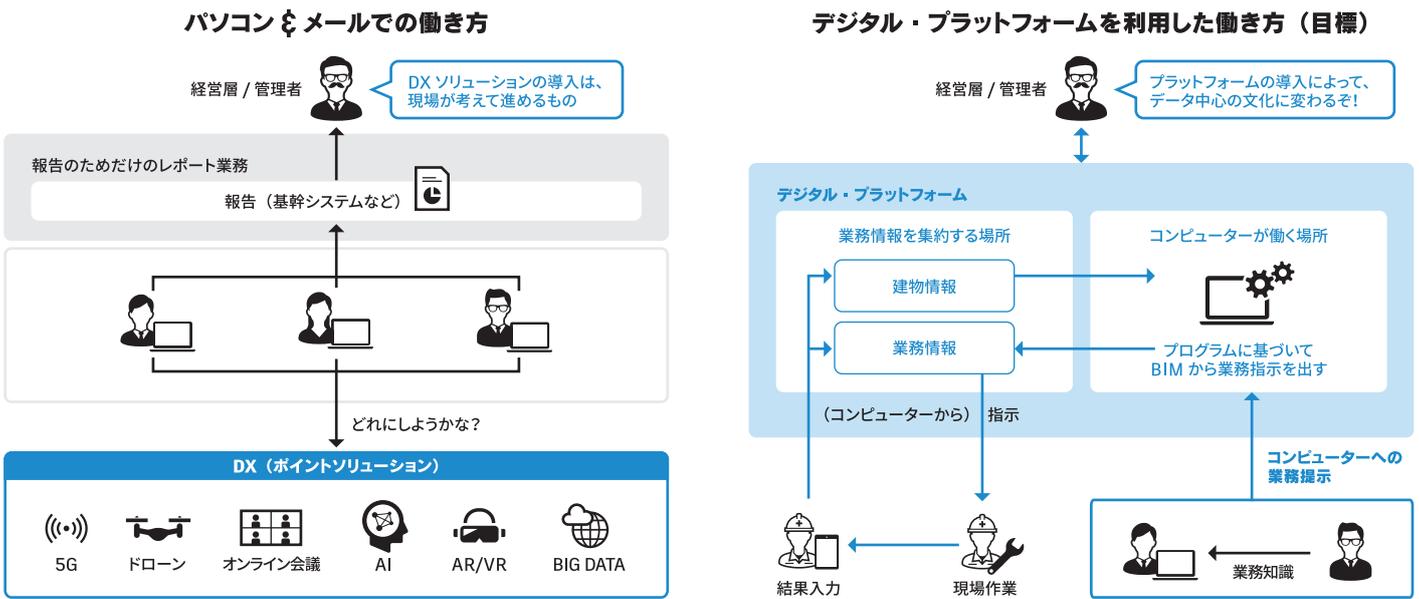
- 経営者自身が直接現場の状況を確認できるように
- 経営層の意思決定情報を現場へも共有可能に

ISO 19650 対応のためのシステムとして

BIM BSI Kitemark を日本で初めて認証を受けた
大和ハウス工業がCDE 環境としてBIM 360を採用している

業務自動化や現場無人化につながるデジタル・プラットフォームとして

DX = 業務の情報構造の変革 = プラットフォームの採用



大和ハウス工業のデジタルトランスフォーメーション
製品・サービス・ビジネスモデルの変革による
企業間競争における優位性の確立・企業文化の変革→企業経営のサステナビリティ

建築業務のデジタルイノベーション
建築現場のデジタル化による
働き方改革の実現と現場課題の解決もオープンイノベーション→業界改革へのメカニズム

<p>DC戦略</p> <p>デジタルコングレスによる 現場業務の省力化・無人化 現場業務の可視化 (行方管理)</p>	<p>BIM転換</p> <p>設計データのデジタル化による 設計図書のデジタル化 建築情報の可視化 フロントローディング負荷の削減 情報連携の構築 (業務間・企業間)</p>
<p>DfMA+IC 技術構築</p> <p>次世代建築技術の構築による トータルコスト削減と現場業務の効率化 建築物の安全・向上・検証 建築現場作業の改善・標準化・自動化</p>	

CDEツールとしてのBIM 360活用事例

デジタル情報を軸にした業務管理

大和ハウス工業 様

BIM 360は海外でCDEツールとして高い評価を経ているため、CDE 環境としてBIM 360を全物件で導入し、完全BIM化の基盤ツールとして位置づけ。設計情報をスムーズに施工に受け渡すため、BIM 360でプロジェクト関係者がリアルタイムに情報共有を行っている。

https://bim-design.com/catalog/uploads/Final_DAIWA_HOUSE-CaseStudy-ja.pdf

BIM 360 の詳細は、担当営業またはオートデスク認定販売店までお問い合わせください。

Email : Japan.BIM360.Contact@autodesk.com

DX 担当部署 / DX 関心者向け